

平成 30年 2月 5日

浜田市議会議長 川神 裕司 様

議員名 沖田 真治



調査研究活動報告書

下記のとおり調査研究のため研修等を行ったので、その結果を報告します。

記

1. 期 間 平成30年1月17日(水)～19日(金)

2. 調査研修内容

大磯町における地域プロデューサーを核とした、官民協働による多角的なアプローチの様々な事業を調査した

案内人…原 大祐(西湘を遊ぶ会代表)他

- 交流人口増への取組み…大磯町の空き家リノベーション事例
- 学校魅力化への取組み…星槎学園
- 子育て…こびとのこや(森の幼稚園)
- 観光交流…茅ヶ崎市、熊澤酒造のものづくり&レストラン

3. 研修先

大磯町…NPO西湘を遊ぶ会、星槎学園、こびとのこや

茅ヶ崎市…MOKI CHI-熊澤酒造

4. 調査経費 51,204円

(経費内訳 浜田市～広島空港～羽田～大磯町
往復交通費、宿泊費)

交通費(ホテルパック) 35,200円

交通費(移動費) 5,669円

宿泊代 10,335円

5. 調査研究活動の概要

別紙のとおり



【視察研修の概要】

○視察研修名：

大磯町における地域プロデューサーを核とした、官民協働による多角的なアプローチにおける様々な事業

○日時：平成30年 1月17日（水）10時～1月19日（金）23時

○場所：神奈川県 大磯町、茅ヶ崎市

○案内：原 大祐…（西湘を遊ぶ会代表）

活動理念

自分達が「いいなあ」と思っている地元をどうしたら守り、残していけるのか考えた結果「いいなあ」の輪をもっと多くの人に広げていくことが必要！

「都会と西湘をあそびでつなぐ」をコンセプトに「あそび」からはじまる地域活性の形を探求していく。

1. ^{おいそいち}大磯市から生まれたセレクトショップ“つきやま”と周辺のお店

- 大磯町は人口約32,000人で世帯数は12000世帯。東西に7km程度しかなく、海と山の間には挟まれた細い所に人口が密集している。高齢化率は32%で、県西部は消滅可能性都市になっている。大磯町の予算は60億程度である。

この“つきやま”の場所は大磯駅のそばに有り、昔 吉田茂首相の番記者が利用していた月山という飲み屋だった空家を改装し、オープンした。この場所は大磯町の商工会長が所有していて、貸すのも恥ずかしいという物件だったが、借り上げて、立ち木を伐採し雰囲気が有るものを残して、大磯市出店者で評判のパン屋さんが入居した。（昭和初期の雰囲気）

この「リーズブレッド」は朝のオープンから町内外のお客様が絶えない。今や神奈川県西部で1、2を争う評判のパン屋さんになっている。その後、周辺にはカフェや雑貨などの店が空家を利用してオープンし賑わい空間になってきた。



パン屋さん、リーズブレッドとカフェ、2階は食事が出る。



セレクトショップ・つきやま

写真を見ればわかるが、駅からすぐそばの路地を入ったところに有り、手前につきやま、奥にリーズブレッドやカフェが有る。とても近代的とは言えないが、昭和モダンの香りのする素敵な空間になっている。

パン屋さんの2階の部屋は食事出来るスペースとなっており、下で購入したパンを食べ、お茶やコーヒーが飲める。以前お茶屋さんで茶箱（捨てられるようなもの）が、さりげなく置いてある。

2. 港オアシスと大磯市の連携での地域活性化について

大磯は昔は宿場町で賑わったが、明治になると今で言う海洋リゾート地として渋沢栄一始め安田、三井など多くの財閥の別荘が建った。また8人の首相経験者の別荘も有り、伊藤博文や吉田茂は町民でした。

神奈川県は東部は横浜や川崎など大都市が多く、西部は大都市部の校外だが、いわゆる地方（田舎）になっている。

少子高齢化により人口が減少し、農業や水産業も衰退、大磯港も有るが、漁師も少なく港はほとんど遊漁船が占めています。

しかし大磯を自立した地域にしたいと想い、地域の美味しい食材を探し、港の活性化、漁協を核に協議会を作り朝どれの魚で月1階の朝市を始めた。その拡大版として「港をチャレンジの場に」と現在の大磯市になった。

大磯全体を市（いち）にしよう！

当初より出店基準は①地元である②個人である③ハンドメイドである。を掲げ、毎回1万人は集客している。また無料の発表ブースも有る。これが地域のコミュニティになっている。

行政の補助金はゼロである。HPやSNSでの効果で、開始から8年経つ港オアシスのエリアを駅から港まで、港を中心にエリアに価値を付けたい。

ローカルは崩さない、住民が楽しさ豊かさを知れば、観光客に伝わる思いは『港を中心に、市をエンジンに、点を面に、エリアに価値を』



原 大祐氏の港オアシス、大磯市の説明
大磯町産業環境部 産業観光課観光推進係 磯崎 清彦氏（補足説明）

3. もあな・こびとのこや（神奈川県大磯町 認可小規模保育施設）

元歯科医院の建物の1階部分を改修し開園している。

- 概要：定員は81名で、対象年齢は0歳10カ月から3歳児未満です。保育時間は月曜日から土曜日午前7時半～午後6時半まで、延長保育は午後7時までとなっています。休日保育は無く、日曜祝日は休園です。
- 特徴：“もりのようちえん”のスタイルを取入れており、子供達と共に毎日身近な自然（海、山、畑）に出掛けていき、ゆったりと過ごします。
- 保育方針：
 - ①自然を共に分かち合う！
 - ②とことん遊びつくそう！
 - ③子供も大人も共に育ち合う！



説明者：NPO法人もあなキッズ自然学校 理事長 関山隆一氏

4. 星槎国際高等学校 湘南学習センター視察研修

星槎国際高等学校 湘南学習センターは平成11年に開港された広域通信制高校です。3年間の学習はスポーツを中心に活動しつつ、進学に対応できる学習、そしてアスリートにふさわしい生活を目指し日夜頑張っています。

教育の目的はスポーツや、学習、生活を通じて『共生社会の実現』を目指しています。

サッカー専攻男子、硬式野球専攻、サッカー専攻女子、バレーボール専攻、陸上競技専攻、バスケットボール専攻のコースが有り、それぞれの夢への挑戦や、その実現に向けて努力しています。

夢の実現に向けたキャリア教育も充実しており、人と人の関わり合いがある「生きた授業」を実践しています。

登校も授業も自分で選ぶ大学スタイルの学習を取入れており

- ①「基礎学力の向上」国語・数学・英語は習熟度別の3クラス制の授業です。
- ②「ゼミ活動」毎週木曜日、学年は関係なく指導者ゼミ、福祉ゼミ、PCゼミ等多種多彩なゼミが有ります。
- ③「進路設計」1年次から将来計画を立て、進学・就職・セカンドキャリアについても考えています。



『星槎グループ、副本部長』角木 孝生 氏『男子サッカー部、総監督』大森 西三郎 氏



「生徒の活躍」資料展示

5. 熊澤酒造 視察研修

神奈川県茅ヶ崎市香川に有る熊澤酒造にお邪魔し、社長の熊澤茂吉氏に話を伺った。湘南でここしかない造り酒屋の熊澤酒造である。

先代の茂吉（祖父）が低価格の酒を造り、地域に納めていたが、親族会議で廃業する事が決まり、自身足元の酒作り（熊澤家のルーツ）を見つめ直し事業を継承する事を決意した。

引き継ぐ時に事業を見直し、安物の酒から地元の米にこだわった酒造りや地ビールにシフトした。

造り酒屋なので、敷地は広く他の事業を模索当初、地ビールやレストランなどを手掛け、宣伝費をかけて集客を計ったが、需要にこたえられない結果になり、以降宣伝はしないと決め、時代の流れに変化対応出来るのは、徐々にやる事と心がけてきた。

地ビールや最初のレストランが当たったが、祖父が無くなって相続税が9億円位あり、利益は上がっているが、相続税を払う為に働いているのかと思う。

地元重視でやっており、平日は30代から上の女性客が大半である。

私は観光客やバスが行く所には行かない。観光客はリピーターでも無い。

私はリピーター（地元の方）の評価、満足を目指している。

大磯市も同じだと思う。地元の人が集い、楽しむそれでいいと思う。時間は掛かるけど…。

3棟古民家を移築したが、事業が成功したから、何とか利用できないかと言う話がある。古民家は、固定資産税評価額が低いので相続対策になるかも知れない。

色々な事業で人とのつながりが出来てくる。仲間と話をする中で新たな発想が出て来る。

最後に 我々が地元が好きですかと聞くと「我が家は500年ここに住んでいる。好きとか嫌いとかでは無いと思う。」と言われた。



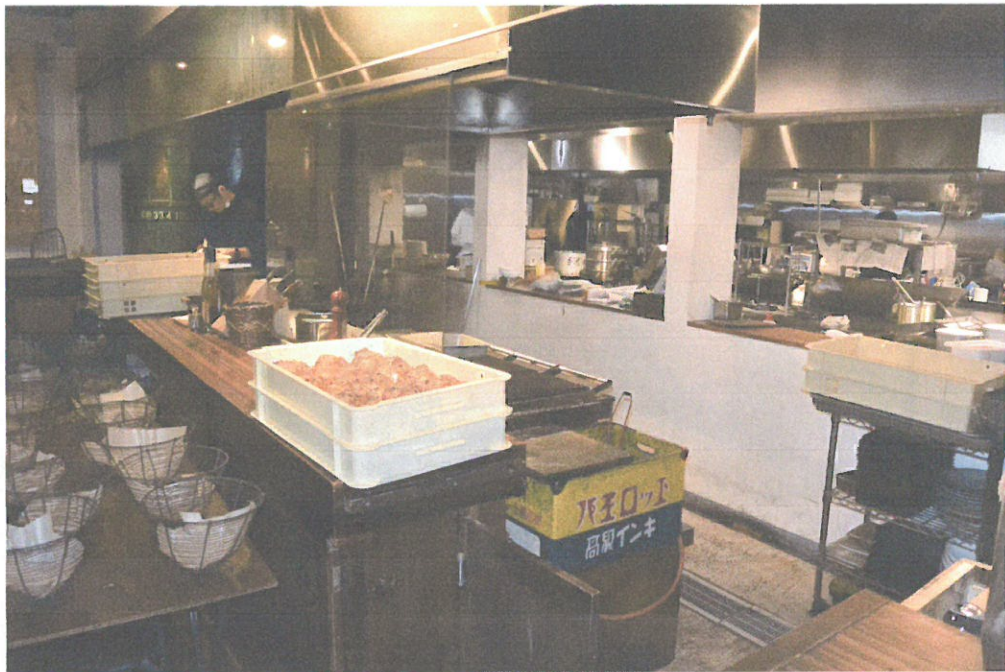
熊澤酒造入口



熊澤酒造 代表取締役 熊澤 茂吉氏を囲んで。



古民家を活用したレストラン



酒蔵を改修したパン工房



酒樽を造っていた倉庫をクラフト作家の展示場になっている。



敷地内にある mokichi green market
地域の無農薬農家が野菜を親子で販売していた

【所 感】

今回の大磯町と茅ヶ崎市の視察において、実際携わっている現場の人から直接お話を伺い、やってみることの大切さを思いました、大磯市を毎月開催を通じて、町の賑わいと港の賑わいを造り出し、それが産業に繋がり、新たな人と人が繋がることで、新たな価値を見出して成長し合う、そこには決して無理がなく、それぞれの役割をこなしていくことで、住民が住体となって、クオリティーは崩さず「自分達の住んでいる所（地域）を好きになろう」！そして住民が暮らしを楽しむ、そこにある豊かな、自然・文化を知り、ここで楽しく暮らしていくことが、観光客にも伝わると言う思いから様々なプロジェクトを生みだしており、地域が生き活きとしていると感じました。また、やるかやらないかのすべてのキーマンは「民間側でうまく動いてくれる人を探す」ここが、一番大事だということでした、大磯町と浜田市では、近隣の市場規模も違いますが、大磯町の「まちづくり」「ひとづくり」「ものづくり」の循環した仕組みをどうやって取り入れて行けるのか今後、どのような形で行政がかかわって行けるかが、今回の大磯町の視察研修での私の所感であります。

最後に、ご案内を頂いた西湘を遊ぶ会代表の原大祐さんには大変お世話になりました。

